



設備・保全技術センター 土木建築技術部 土木技術グループ マネジャー

花田 賢師 (2005年入社、建設工学専攻)

## グローバルエンジニアとして 製鉄プラント建設の限界を打破したい

地盤挙動や液状化解析など大学で学んだ建設工学の知識を活かし、製鉄所の大型プラントの土木エンジニアリングに従事している。

「製鉄プラントは一般的にはあり得ない大重量・高温高圧の厳しい環境で連続操業しているため、定期的な改修工事が必要となります。改修の効率化を図り工期を短縮し、操業への影響をミニマム化することが私の使命です。そこには当社にしかできないスケールの大きなエンジニアリングの世界があります」

これまで君津製鉄所厚板工場の圧延機リフレッシュ工事を担当。活躍の舞台は国内にとどまらず、海外へも広がっている。インドではタタ製鉄ジャムシェドプール製鉄所の連続焼鈍ライン(CAPL)、ブラジルではユニガル社の自動車用亜鉛めっき鋼板製造ライン(CGL)の設計業務を支援した。

「海外では現地設計会社がビジネスパートナーになります。そこでは日本の常識は通用しません。現地入りの前に何回もメールでやりとりして確認したにもかかわらず、現地入りしてみると図面どおり進んでいないことなどがしばしばあり、その軌道修正に奔走しました。この経験を通して技術に裏付けられたコミュニケーション力の重要性を痛感しました」

海外プロジェクトの任務の他、現在は八幡製鉄所戸畑第4高炉改修工事に取り組んでいる。1998年の稼働開始以来14年が経過した戸畑第4高炉の容積を、従来の約4250m<sup>3</sup>から5000m<sup>3</sup>に拡大することで国際競争力を高める狙いだ。本改修工事は2014年1～4月に行われる。

「必要最小限のコストと工期で最大限の炉容拡大を実現するだけでなく、今後の高炉基礎には免震・制震の考え方を取り入れるなどグレードの高い設備計画が求められています。世界初のエンジニアリングで、従来の製鉄プラント建設の限界を打破していきたいです」

